



News Release

平成27年 1月20日

香川県内初の手術支援ロボット（ダ・ヴィンチ）による 直腸がん手術について

平成26年12月中旬に、香川大学医学部附属病院消化器外科（科長 鈴木康之教授）は、手術支援ロボット（ダ・ヴィンチ）を用いて、直腸がんに対する手術を60歳代男性患者に対し施行し、順調に経過し12月下旬に無事に退院されました。なお、香川県下では第1例目となります。

ダ・ヴィンチは、香川大学医学部附属病院が平成25年6月に導入し、同年8月から保険適用されている前立腺がん手術において使用してまいりました。また、これまでの開腹手術や腹腔鏡手術に比べて、より安全で確実、かつ患者さんへの負担が少ない手術が期待されることから、保険適用されていない直腸がん手術などの実施準備を進めており、香川大学医学部倫理委員会の審査などを経て、この度、ダ・ヴィンチ直腸がん手術第1例目の実施に至りました。

混合診療の認められていない日本ではまだ一般的ではありませんが、世界的にはロボット支援下の直腸がん手術は普及してきています。関節を持つ鉗子、3D画像、手ぶれをなくす機能が特徴で、精密な手術が可能となります。直腸がん手術では排尿障害、性機能障害を来すことがありますが、より精密な手術をロボット支援下で行うことにより、それらの機能障害を有意に減らすことが証明されております。また、出血量や開腹移行率も減少するとされています。

今後は、実績を重ね、先進医療への申請や、その後の保険適用を念頭に、連携施設と共同で学会・関係各所に働きかけて行く予定です。

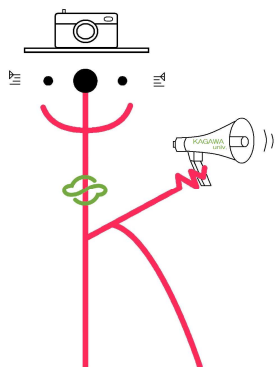
記

手術日： 平成26年12月中旬

入院期間： 約2週

執刀医： 香川大学医学部附属病院消化器外科 赤本 伸太郎 助教

今後の経過： 患者さんには、1月ごとに受診していただき、経過観察します。



➤ お問い合わせ先
香川大学医学部 総務課
小野
TEL：087-891-2008
FAX：087-891-2016